

**剣道の達人の話から学ぶ**

先月の1月23日（土）に福栄武道大会がありました。（寒波の到来で、この日の朝から雪が降り始め、翌日にかけて福栄地域も大雪となり、25日は休校となりました。）

この武道大会の開会式の後、藤井良一さんという剣道の達人が小中学生を前にお話をされました。藤井さんは、平成23年に山口県で開催された国体（国体とは、国民体育大会の略で、都道府県対抗の全国大会のこと）において、剣道成年団体の部で山口県チームが優勝した時のメンバーだった人です。



藤井さんは、「剣道で強くなるためには、大切にしたいことが3つある」というお話をされました。どんな話をされたか、聞いていた1・2年生の皆さんは覚えていますか。私は、「剣道で強くなるために」という部分を「人間として成長するために」と置き換えても通じる話だなと思いながら、藤井さんのお話を聞いていました。

1・2年生の中で残念ながら話の内容を忘れてしまった人、そして、当日の話聞くことができなかった3年生のために、藤井さんのお話の要点を紹介します。

1つ目 夢を持つこと

まずは、自分の夢をしっかりと持つこと。そして、その夢の実現に向けて自分ができることを地道にやっていくことが大切。

2つ目 人に対する感謝の気持ちを大切にすること

相手がいてこそ、はじめて試合ができる。練習も同じこと、相手がいることで練習が成り立つ。そして、日々、自分を支えてくれているさまざまな人たちへの感謝の気持ちを大切にしよう。

3つ目 運を味方につけること

運の無駄遣いをしない。あたりまえのことをきちんとやること。いい加減なことやずるいことをしない。そのようなことを大切にしていると、ここぞという大事な時に運が自分に味方してくれる。

1つ目の夢を持つということは、はっきりとした自分の目標を持つということでもあります。部活動でいえば、「萩市の大会で1位になる」「山口県でベスト8に入る」という目標を持って、毎日の練習に取り組むのと、何の目標もなしに練習するのでは、力の付き具合がまるで違ってきます。はっきりとした目標を持つことももちろん大切ですが、その目標の実現のために毎日何を続けていくかということが結果を大きく左右します。

2つ目の人に対する感謝の気持ちですが、日頃の生活の中で「やってもらってあたりまえ」と思っていることが、実際にはたくさんあるのではないのでしょうか。例えば、弁当にしても家でつくってもらってあたりまえではありません。「弁当の日」の弁当を最初から最後まで自分で作った人ならわかるはずですが、「やってもらってありがたい」「〇〇さんのおかげです」という気持ちで物事に取り組みたいものです。そして、感謝の気持ちを相手にどう伝えるのかも考えてほしいと思います。

3つ目の運を味方につけるということに関しては、いい加減なことやずるいことをすることが、大切な運の無駄遣いにつながっているということです。すでにかなり運を無駄遣いしている人はいませんか。

1つ学年が上がる、または中学校を卒業し高校へ進学するという大きな節目において、藤井さんの「3つの大切にしたいこと」から今の自分の姿をふり返ってみてください。